

安全で安心して暮らすために

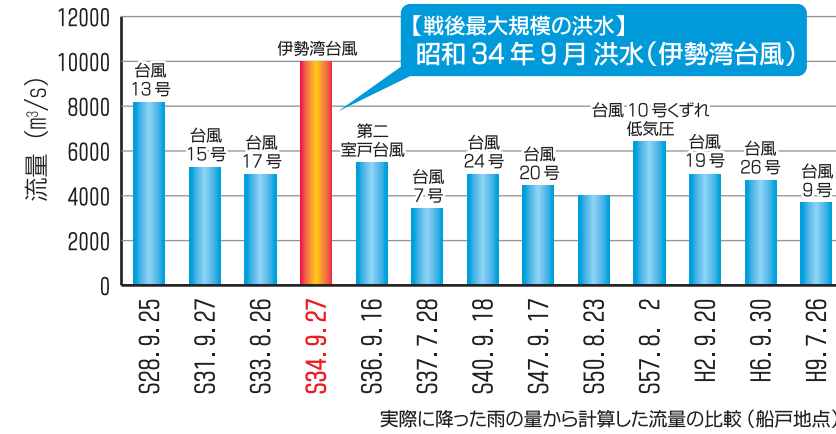
戦後最大規模の洪水(伊勢湾台風)に対して安全な川づくりをめざします

目標

過去に起こった洪水の雨の量と雨の降り方、洪水時の水の量などから検討した結果、紀の川では戦後最大の洪水である昭和34年9月(伊勢湾台風)規模の洪水に対し安全な川づくりをめざします。

「河川整備で目標とする流量^{*}」に示すように、大滝ダムにより洪水を2,500m³/sまで減らし、各地点でそれぞれの水量が流れるように川を整備します。

● 整備の対象とする洪水(今までに起きた洪水からの検証)



● 河川整備で目標とする流量

(単位:m³/s)



● 大滝ダムの放流について

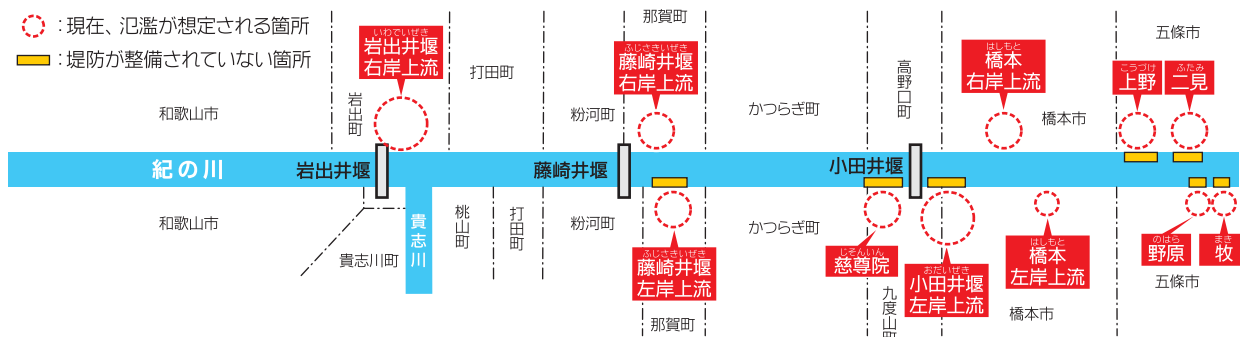
大滝ダムは、伊勢湾台風規模の洪水が発生した場合、ダムに流入する水量のうちダムから流す水量を最大で2,500m³/sに調節し、それ以上の水量をダムに貯めるように操作するとダムの治水容量を最大限に活用できます。しかし、現在の川の整備状況を見ると大滝ダムからの放流量2,500m³/sを流す能力はありません。

したがって、当面は現在の川の状況に合わせた1,200m³/s程度とし、今後の川の整備状況に応じて放流量を増やしていくことにしています。



伊勢湾台風と同じ規模の洪水が起こったときに氾濫が想定される箇所

課題

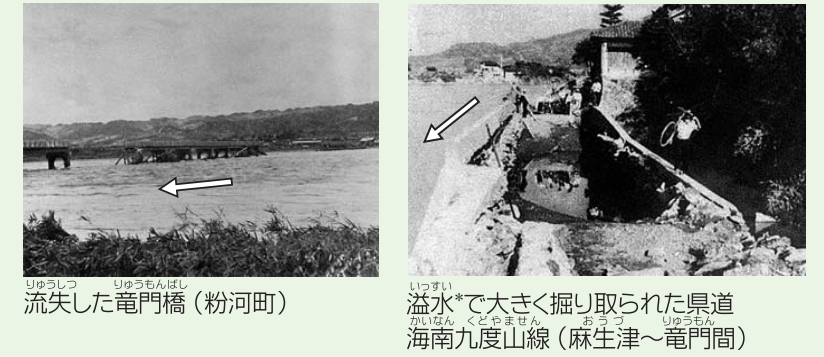


紀の川流域における過去の洪水

紀の川では昔から多くの洪水被害が発生してきました。

特に昭和34年9月の伊勢湾台風は紀の川上流部に大雨を降らせ、各地で堤防がくずれたり、たくさんの家が水につかたり流されたりしました。近年でも平成2年の台風で南海橋の橋脚が陥没する被害がありました。

昭和28年9月 台風13号



昭和34年9月 伊勢湾台風



昭和57年8月 台風10号くずれ低気圧



直川地区の浸水状況
集まってきた水が紀の川本川にうまく流れきれず、浸水被害が発生しました(和歌山市)

平成2年9月 台風19号



洪水により川底がえぐり取られて陥没した南海橋(和歌山市)

岩出井堰の濁流の状況(岩出町)